

令和7年度9月期古賀市社会教育委員の会議 議事録

【会議名称】 令和7年度9月期古賀市社会教育委員の会議

【日 時】 令和7年9月26日（金） 18時30分～20時00分

【場 所】 リーパスプラザこが交流館 103洋室

【内 容】
・今年度の取組検討について
・「生涯学習笑顔のつどい」テーマ、団体決め

【出席委員】 園議長、安部委員、石川委員、梅谷委員、橋爪委員、倉掛委員、大賀委員、坂崎委員、藤田委員、（以上委員9名）

【欠席委員】 江口委員

【事務局】 生涯学習推進課長、職員2名

【傍聴者数】 0名

【配布資料】

- ・レジュメ

1. 開会

2. 協議事項

- ・今年度の取り組み検討について
- ・「生涯学習笑顔のつどい」テーマ、団体決め

(園議長)

「生涯学習笑顔のつどい」のテーマを決めていきたいと思う。キーワードとして意見があればお願いします。去年の経験から倉掛委員はどうですか。

(倉掛委員)

今年度は「学び」という言葉が多く出ていると思う。

(梅谷委員)

古賀市として何を推進していくのか。基本計画に沿うと柱が立てやすいと思う。
「つながり深まる生涯教育」様々な年齢の人がどうつながるか。

(倉掛委員)

昨年計画を策定しているときに、私個人としては「子ども」について意見を出してきた。
昔と今は違う。今は子どもを大人が管理している。

(梅谷委員)

やはり大きなテーマにしたほうがいいと思う。子どもの貧困の背景は大人も影響している。
「身近なつながり」など大きなテーマにして、多様な発表があったらいいのではないか。
テーマが小さいほうが、ピンポイントで話しやすい良さもあると思うので、どちらをとるか。

(園議長)

大きなテーマにおいて、高齢者や子ども、周知がされていない活動など多様な好事例を
いれたらどうか。協議の終わりまでには決めていきたいと思う。今年度の取り組み検討について
発表をお願いします。

(橋爪委員)

地域の少年野球チームを支援しており、「子どもセントード(子ども真ん中社会)」に関心が

ある。

子ども自身の声や意思を尊重し、伴走する大人が互いにつながることができる。

期待される効果としては、地域に「帰ってこられる場所」が生まれ、「よその子」ではなく「うちの子」として関われるようになる。

笑顔のつどいについては、大きなテーマのほうがいいと思う。今まで実践発表が多かったが、今回は、発表を踏まえ、古賀市の未来像を語る時間が多くあるといいと思う。

(倉掛委員)

地域で子どもと大人が日常的に対等に会話できる環境づくりができたらいいと思う。

地域学校協働活動を広げたいが、立ち上げ初期のエネルギー負担が大きいことが課題だと感じる。

(坂崎委員)

自分の中では3つあって、地域の公民館活動と学校で朝勉やサマースクールと福祉の子ども食堂の活動をしている。事業をするうえで、人材育成と世代交代の課題があると感じる。インドネシア視察から子どもたちの教育環境の変化を感じ、日本にも課題があると思った。社会教育でも担えることがあると思うので、ドイツのヨーゼフ・ボイスの言葉のように自分も「社会彫刻」として地域活動していきたいと思う。

また、「掘っていないところ」の活動発掘により、地域活動のヒントになるのではないかと思う。

(石川委員)

私が所属している文化協会は、43年の歴史があり、会員数650名(大人8割、子ども2割)4大事業として、童謡まつり、芸術文化祭、サロンコンサート、夏休み子ども体験教室がある。子どもたちにとっては輝ける場所であり、チームワークや礼儀を学び成長する姿を見ることができる。高齢者にとっても生きがい作りとなり、おしゃべりすることで認知症予防効果もある。

(園議長)

3名の発表を聞いて、質問やご意見がありましたらお願いします。

(梅谷委員)

「子どもセナタード」という話があったが、子どもは子ども扱いではなく、子どもとしてできる役割があると思う。社会の一員として、役割を与えることも社会教育において大切だと思う。

(倉掛委員)

介護にも「センターパーソン」といって、認知症の人を「人」として尊重し、その人の立場に立ってケアを行うという考え方がある。

(藤田委員)

文化協会は会員制ですか。

(石川委員)

会員制で発表会に優先的に出ることができる。
ステージに出ることでみんなが輝ける場を提供している。
書道や絵の展示も多くしている。

(園議長)

前回お話をあった、子ども食堂の運営母体の違いについてもっと詳しくお聞きしたいので、坂崎委員お願いします。

(坂崎委員)

子ども食堂は市内で 4 か所あるが、それぞれ運営母体が違う。他にもはじめたいという人もいる。発表することで活動が活発になるような機会になればと思う。
運営上は、保健所対応や補助金申請など行政制度との調整課題もあると感じる。

(倉掛委員)

「あったかくぼしょくどう」は誰でも来ていい食堂をしている。乳幼児とお年寄りが多い。

(梅谷委員)

高齢者が 1 歩外に出ることで、独居老人の見守りにもつながる。

(安部委員)

皆さんの意見を聞いて、どれもその通りだと思う。笑顔のつどいはテーマを絞り込まずに「古賀市の未来へ向けて」考えられる場になればと思う。今は地域のつながりがないので、古賀市で生まれるといいと思う。

(大賀委員)

1 番印象に残ったのは、「子どもセナタード」の伴走する大人がつながること。
子どもを中心に保護者同士がつながってきた。子ども食堂はスタッフを探す課題があると

感じる。

(園議長)

皆さんの意見より、大きなテーマで「世代をこえた地域のつながり」でいきたいと思う。進行については、前回の資料のとおり、発表時間は各団体10分程度。質疑応答後、グループディスカッション(20分)を実施。参加者全体でテーマについて話し合う時間を多くとりたいと思う。発表団体についてご意見ありますか。

(梅谷)

「あったかくぼしょくどう」は子どもだけでなく、ご高齢の方も参加していて、いい取り組みだと思う。

(坂崎委員)

筵内放生会で演劇が長く続いている面白いと思う。市民駅伝も活発に参加している。

(梅谷委員)

筵内は放生会や音楽活動、菜の花祭りなど世代を超えた地域活動をしており、地域の力が強いと思う。

(坂崎委員)

古賀駅西口で古本屋さんをしている「みんふるや」は新しい取り組みとしてどうか。そこから広がる読書活動など話してもらい、そんな活動を応援するのもいいと思う。

(梅谷)

その発想の転換を学ぶことによって社会の考え方を変えられるきっかけになればいいと思う。

(園議長)

では、発表者の候補は3団体。交渉担当は「あったかくぼしょくどう」は安部委員、「筵内区」は梅谷委員、「みんふるや」は坂崎さんにお願いします。

(事務局)

事務局から発表者推薦の流れについて。

まずは、担当の委員から笑顔のつどいで発表をしていただけるかどうか確認をして、内諾とっていただく。そして、1回目の打ち合わせのときのみ、事務局も一緒に行き正式な依頼文をお渡しして、笑顔のつどいについて説明する。

2回目以降は委員と発表者だけで打ち合わせをしていただく。もし、リーパスの会議室を利

用する場合は部屋の予約をしますので、ご連絡ください。発表団体の人数については、1団体1人もしくは2人まで。発表者には謝礼金として、1人5,000円をお支払いする。

担当者は、交渉の結果と、団体の紹介、活動の様子、広報に載せるための団体の正式名称をご確認して教えていただきたいと思う。よろしくお願ひいたします。

3. その他

(1)各委員から

・スポーツ協会イベント「市民スポーツの日」：10月12日（日）古賀中学校

・文化協会イベント「サロンコンサート」：10月18日（土）

リーパスプラザ多目的ホール

(2)事務局から

・10月17日(金)令和7年度福岡ブロック社会教育委員研修会について

(3)次回開催日程

10月24日（金）18時30分～ 会場：103洋室

4. 閉会